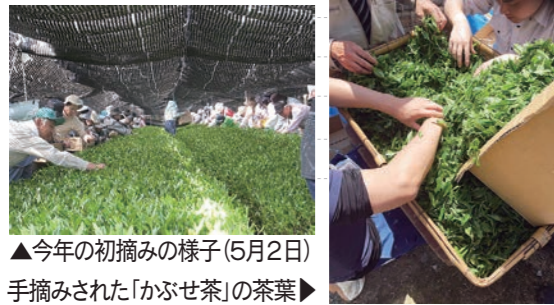




日本一に輝いた「舞鶴のお茶」生産者の皆さん



▲今年の初摘みの様子(5月2日)
手摘みされた「かぶせ茶」の茶葉

かぶせ茶…新芽が2、3枚開き始めたところから1週間程度茶園に覆いをかぶせて日光を遮り、渋みを抑えて旨味を引き出したお茶のこと。

舞鶴のお茶 5年連続日本一に!! 全国茶品評会かぶせ茶の部

8月23日～26日に三重県で行われた第70回全国茶品評会の「かぶせ茶」の部で、本市のお茶が5年連続で産地賞1位を受賞。個人でも舞鶴茶生産組合の人たちが上位5位までを独占したほか、多数入賞しました。

また、9月5日には、舞鶴茶生産組合を代表して、組合長の河田勝臣さん(個人の部2位)と副組合長の南範男さん(個人の部1位)、植和田英子さん(個人の部3位)らが市長報告に市役所を訪れ、5年連続の産地賞受賞と個人賞の受賞結果を報告。組合員が共同でお茶作りに取り組んでいる成果だと喜びを語り、前人未だの快挙となる6連覇も目指したいと意気込みを話してくれました。

なお、12月10日(土)には三重県で表彰授与式が開催されます。

全国茶品評会 かぶせ茶の部 審査結果 産地賞1位…舞鶴市(5年連続)

個人の部		
1位	農林水産大臣賞	南範男さん
2位	農林水産省生産局長賞	河田勝臣さん
3位	公益社団法人日本茶業中央会長賞	植和田英子さん
4位	全国茶生産団体連合会長賞	菱田繁政さん
5位	全国茶商工業協同組合連合会理事長賞	増茂義郎さん

底引き網漁が解禁 ドングロやカレイなどずらり約20種



9月1日、京都府沖合の底引き網漁が解禁。市内では、府漁協舞鶴支所所属の漁船5隻が出漁し、2日の朝に約2.2トンの魚が水揚げされました。

同日、府漁協舞鶴地方卸売市場で行われた今シーズン初めての競りでは、仲買人の威勢の良い声が飛び交い、ノドグロ(アカムツ)、ササガレイ(ヤナギムシガレイ)やマガレイ(アカガレイ)など旬の魚約20種が次々に競り落とされました。



▲仲買人の威勢の良い声が飛び交う

舞鶴市青少年善行表彰式



▲表彰された個人・団体の代表者(前列)と関係者の皆さん

青少年の善行をたたえて 2団体3個人を表彰

9月4日、赤れんが2号棟で青少年の日頃の善行をたたえる「青少年善行表彰式」を開催しました。青少年の健全育成を目的に毎年実施しているもので、「青少年の健全育成を考える『市民の集い』」と併せて実施。2団体3個人を表彰しました。また、「市民の集い」では、京都府警察本部の秋保龍太郎さんの講演「SNSと大麻の危険性」が行われました。

《青少年善行表彰の受賞者(敬称略)》

- ◆個人表彰 角地萌依、富井千尋、領家弥月(以上若浦中3年)
- ◆団体表彰 西舞鶴高校ボランティア部、東舞鶴高校北米訪問団

原子力防災訓練を実施 大浦地区の住人ら約300人が参加

8月27日、高浜発電所で事故が発生したという想定で、内閣府、3府県(京都府・福井県・滋賀県)、関西広域連合、防災関係機関などと初めて合同で原子力防災訓練を実施しました。

舞鶴市では、大浦地区(Bゾーン)で基準値を超える放射線量を計測し、Bゾーンに避難指示を発表したという想定で実施。大浦地区の住民の皆さんをはじめ、平保育園児やまいづる作業所の通所者、東・西大浦消防団員のほか、市職員、消防職員など約300人が参加しました。

訓練では、市災害対策本部の設置・運営、高浜オフサイトセンターへの職員派遣、関係機関等と情報通信などの訓練を行うとともに、住民の皆さんは、市からの指示を受け、避難時集結場所である大浦小学校に集合し、避難カードを提出後、安定ヨウ素剤に見立てたあめ玉を受け取りました。

その後、参加者の一部は避難中継所である丹波自然運動公園までバスで広域避難を行い、避難退域時検査や除染の訓練に参加するなど避難手順の流れを確認しました。

また、大浦会館では、在宅の重度避難行動要支援者の受け入れや放射線防護対策設備の稼働訓練を行いました。

今後も、地域ごとの訓練を年次的に計画・実施し、検証する中で、京都府や関係機関とも連携し、住民避難計画の実効性がより高まるよう取り組んでいきたいと考えています。

〈危機管理・防災課〉



避難退域時検査を実施(丹波自然運動公園)



災害対策本部(高浜オフサイトセンター)



避難の受け付け(大浦小学校)



▲完成したプロフ ▲ウズベキスタンの歴史を紹介

文化祭でウズベキスタン料理を提供 日星高校の生徒が伝統料理プロフを調理

9月9日に行われた日星高校の文化祭で、東京五輪のホストタウンとしてウズベキスタンのレスリング競技の合宿の誘致を進めている同国の伝統料理「プロフ」の提供がありました。プロフとはウズベキスタンの炊き込みご飯のこと。今年1月、ウズベキスタン日本人抑留者資料館館長のジャリル・スルタノフさんが来鶴した際、同校生徒と交流したことがきっかけとなりました。当日は、4月にウズベキスタン大使館職員から直接料理方法を教わった市教育委員会の栄養教諭から指導を受けた生徒が調理し来場者に提供しました。

また、クラスで調べてまとめたウズベキスタンの歴史や文化を紹介する展示も行われました。